

研究・調査報告書

報告書番号	担当
176	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Social and behavioural determinants of alcohol consumption. 社会と個人における飲酒量の決定要因	
執筆者	
Dias P, Oliveira A, Lopes C	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Ann Hum Biol. 2011 May;38(3):337-44	
キーワード	
飲酒量、アルコール飲料、医療社会学、保健行動	
要旨	
目的： ポルトガルの都市部の成人から飲酒量の社会的、個人的決定要因を調べる。	
方法： ポルトの一般成人（男性1,489名、女性925名）を無作為抽出した。社会人口統計（年齢、教育歴、雇用状態）と行動特性（喫煙、身体活動、果実・野菜摂取量）は質問紙法を適用し、飲酒量と酒種は前年分を含む食事頻度調査を用い算出した。オッズ比と95%信頼区間は、ロジスティック回帰分析で算出した。	
結果： 飲酒者の割合は65.6%（男性85.5%、女性53.3%）であった。このうち、40.1%の男性と15.6%の女性が多量飲酒者（男性で30g/日、女性で15g/日超）であった。多変量回帰分析の結果、非飲酒者に比べて、大量飲酒者は有意に高齢で（18-39歳と40-59歳を比較して、男性でOR=5.30, 95%CI 3.01-9.35、女性でOR=3.86, 95%CI 2.24-6.63）、教育歴が低く（12年以上と4年以下を比較して、男性でOR=0.43, 95%CI 0.24-0.76、女性でOR=0.46, 95%CI 0.30-0.71）、喫煙者の割合が高かった（男性でOR=2.08, 95%CI 1.23-3.52、女性でOR=1.51, 95%CI 0.93-2.46）。多量飲酒と果実・野菜の摂取量に負の相関がみられた（1日量が5単位以上と5単位未満を比較して、男性でOR=0.56, 95%CI 0.34-0.79、女性でOR=0.68, 95%CI 0.50-0.93）。教育歴の低い男性はワインの摂取量が多く、ビールとスピリッツの摂取量が少なかった。女性では、ビールとスピリッツの摂取量と定期的な身体活動に正の相関がみられた（OR=1.59, 95%CI 1.18-2.13）。	
結論： 現在飲酒者と多量飲酒者は男性に多く、非飲酒者と比べて、高齢で教育歴が低く、喫煙者の割合が高くて果実・野菜の摂取量が少なかった。	